

**芳賀飼料稲生産組合における
飼料イネを活用した耕畜連携の推進**

芳賀町飼料稲生産組合における 飼料イネを活用した耕畜連携の推進

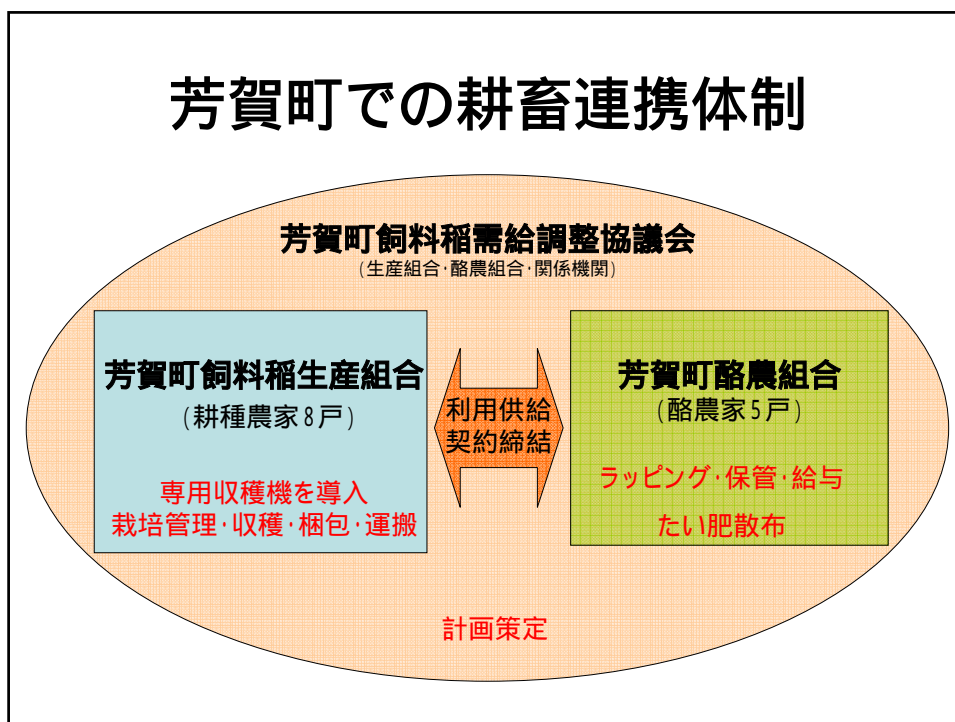


芳賀町 黒崎宣芳

芳賀町飼料稲生産組合 での飼料イネ作付の推移

	H16	H17	H18
栽培者数	8	8	8
作付面積 (ha)	13.7	15.5	19.8
主な取組み	専用収穫 機導入	乳酸菌 添加	乳酸菌 添加

芳賀町での耕畜連携体制



栽培管理は食用と変わらず



専用コンバインによる収穫



あれ、後ろにロールが転がっている



トラックに乗せて畜産農家へ



畜産農家でラッピング



飼料イネの経済性(10aあたり)

芳賀町飼料稲生産組合

収入計	83,000円
販売金	30,000
産地づくり交付金	40,000
耕畜連携推進対策助成金	13,000
支出計	71,336円
生産費(栽培管理・収穫)	71,336
差引残高	11,664円

芳賀町酪農組合

収入計	10,000円
国産粗飼料増産緊急対策助成金	10,000
支出計	39,923円
生産費(ラッピング)	9,923
購入金(@3,000円×10ロール)	30,000
差引残高	29,923円
実質稲発酵粗飼料対価	29,923円 / 10a = 55.5円 / TDNkg
(他の自給飼料よりやや安い)	

給与しているイネWCS



嗜好性は良好



耕畜連携による飼料イネのメリット

耕種農家

- 水稻を作れる(技術面・心理面)
- 麦・大豆の連作障害回避
- 作業競合がない
- たい肥の投入による地力増進

畜産農家

- 国産の安全な粗飼料を確保
- 転作田、特に排水不良田の有効活用
- 飼料生産労働時間の削減(飼養専念)
- たい肥の利用先拡大

耕畜連携推進上の課題

- ・飼料イネの作付け規模の拡大と単収向上による**生産コスト低減**
専用品種の利用、最適施肥方法
- ・イネWCSの**高品質化、均質化**
適期収穫の実施、乳酸菌の添加
- ・イネWCSの**需要の確保と給与方法の確立**



～終わり～